

3 R5学校評価に係る保護者アンケートについて（対象123人 回収率87%）

（1）項目3「子どもは、基本的生活習慣や身辺処理が身についてきている。」では、全体の約86%がAまたはBと回答しているが、約9%がC（あまりあてはまらない）と回答している。基本的生活習慣とは一般的には睡眠・食事・排泄・着脱・清潔を指すが、学校ではできていても家庭ではできていない部分や、その逆もあり得るのではないか。面談の際には、家庭での困り感に寄り添って、スモールステップにより着実に身辺処理の力を高めていくことが必要である。

（2）項目4「子どもは、コミュニケーション力が身についてきている。」では、全体の約84%がAまたはBと回答しているが、約14%がCまたはDと回答している。コミュニケーションは自立活動の大区分でもあるため、もう一度生徒のアセスメントを丁寧に行い、自己肯定感が持てるようにコミュニケーションの基礎的能力を高めていく必要がある。また、発語が無くてもコミュニケーションは可能であることを前提に、それぞれに適した方法で学び、習得することができるよう取組を進める。

（3）項目5「子どもは、作業する（働く）力が身についてきている。」では、全体の約85%がAまたはBと回答しているが、約10%がCまたはDと回答している。作業学習の題材の一層の改善と進化や、学校全体のカリキュラムマネジメントを進めることが求められている。また、次年度に向けて、1日作業を行う日を増やすなど教育課程の改編を行い、地域とともにある学校作りの一環として、地域貢献活動なども検討する。

（4）項目13「学校は、配布物をメールに切り替えたり、調査をオンラインなどで行うなど、業務の効率化に向けて取り組んでいる。」では、平均3.75で保護者全体の約94%がAまたはBと回答している。逆にCの回答が全体で3名、不明が1名と否定的な回答も有意に少ない状況であった。令和5年度当初より始めた取組であるが、保護者の理解を得ている状況である。一方で職員への同じ質問では、平均3.2と低調であり、C、Dの否定的な回答もある。新しい取組であるが、継続して職員の理解を得ながら組織的に推進する。また、「できないから、やらない」とならないように、情報部を中心に職員全体の力を高めていく。

（5）項目11「教室や特別教室の数は、十分確保され、教室の広さは適切である。」では、全体の約67%がAまたはBと回答しているが、約29%がCまたはDと回答している。生徒数の増加に合わせた適切な教場の整備について、教育委員会へ要望していく。